

平戸城誘客対策事業やICT教育環境整備事業などを議論

産業建設文教委員会レポート



委員長報告全文はこちらをご覧ください。



産業建設文教委員会
委員長 井元 宏三
副委員長 綾香 良一
委員 池田 稔巳
山本 賢治
神田 全記
松尾 実
竹山 俊郎
松本 正治

多面的機能支払交付金事業

Q 事務が煩雑なことから解散した組織があるようだが、土地改良区の事務職員や他の多面的組織の事務員が兼ねることにより組織の維持を図ることはできないのか。

A 他県ではそういった事務も行ってるところがあると聞いている。令和2年度に土地改良区連絡協議会の組織を立ち上げたので、その中でも意見交換を行い検討したい。

平戸城誘客対策プロモーション事業

Q GoToキャンペーンが開始されることを見込み、平戸を選択していただくためのプロモーション経費や、リニューアルオープンする平戸城からオンライン商館にかけて観光客が市内へ回遊することを目的に事業を行うとのことであるがどのように情報発信を行うのか。

A コロナ禍であることからSNSを活用し、特に、YouTubeなどの動画がより効果があると言われており時期を見極めながら行うなど、特に、九州北部を中心に誘客を行いたいと考えている。

モバイル通信機器整備事業

Q 小中学校が臨時休業となった場合にWi-Fi環境が無い世帯へ貸し出すとのことであるが、平常時の活用はどのようにするのか。

A 児童・生徒の家庭の通信環境を調査した結果によると、約7割の家庭にWi-Fi環境があるが約3割の家庭には整っていないことが分かった。今回、導入する機器の70台は、要保護・準要保護の世帯でWi-Fi環境が整っていない世帯を想定した台数であり、活用としては通常は校舎内でのWi-Fi環境がない教室や、体育館等でICT機器を活用した学習が行えるように使用し、臨時休業等を行う必要が生じた場合に学びを継続するためWi-Fi環境がない世帯へ貸し出すようにしている。

ICT教育環境整備事業

Q 「平戸市ICT教育ビジョン構想図改訂版」によると、端末の家庭への持ち帰り時期は令和4年度から令和5年度となっているが、令和2年度から令和3年度の家庭環境調査は進んでいるのか。

A 令和3年4月に各家庭への調査を



水産物流通販売体制強化支援事業

Q 殺菌装置など施設整備の支援といふことであるがどのような事業か。

A 生鮮魚介類の流通販売において、産地の衛生管理が重要となっていることから、オゾン殺菌装置や荷捌施設で使う海水を殺菌する装置など、衛生管理面での整備や、タブレット等のICT機器導入による作業の効率化につなげるための支援である。特に、衛生管理面については、他市の漁協などでは既に取り組んでいるところもあることから、本市の販売体制の強化に取り

行いWi-Fi環境の最新の状況を把握したい。

Q 令和3年度中に児童生徒の家庭でWi-Fi環境は揃うのか。

A Wi-Fi環境が全て揃うことが理想であるが、通信料もかかることから難しいのではないかと考えている。国は、緊急時においては、GIGAスクール構想においても家庭での学習を進めており、家庭でのWi-Fi環境を奨励している。教育委員会としては、緊急時のオンライン授業には、インターネット環境が無い要保護・準要保護世帯には、モバイルルーターの貸与を考えている。まずは、学校に登校しインターネットを利用して学習したり、教師が直接教えるなど環境を整え、Wi-Fi環境がある世帯と無い世帯の子供の学習の差が無いようにしたい。

令和3年度平戸市あづち大島いさりびの里事業特別会計予算

Q 平成9年8月の施設開設から年数が経過しているが、今後の改修はどのように考えているのか。

A 大島村には個人の宿泊施設はあるが、経営者の高齢化もあり個人経営は困難になってくると思われることから、いさりびの里の宿泊施設は大島村には必須の施設である。今後も継続し

組むための支援である。

Q 施設を整備することにより販売にどう影響したのか。事業の成果の推移を把握していく必要があるのではないのか。

A この事業については、令和3年度から7年間を予定しており、効果が上がれば拡充することも考えている。事業の成果を把握、分析しながら取り組んでいきたい。

食料産業・6次産業化交付金事業

Q ひらど新鮮市場に直営レストランを令和4年3月に開設することであるが、新規雇用による人材の確保は難しいと思われる。営業形態はどのように考え、計画しているのか。

A 9名の新規雇用を見込んでおり、直売所担当者との流動体制でスタートするように予定している。開設に向け人材育成が必要なることもあり、現在、募集を行っている。

Q 施設は交通量が比較的多い道路に面していることから、出入口での交通渋滞、安全対策はどのように考えているのか。

A 交通渋滞を緩和するために駐車場を広く整備しているが、面している道路が県道であるため関係機関とも今後検討していきたい。

て存続できるように、長寿命化を図り維持管理修理計画を立て年次的に施設の改修を行っていききたい。

Q 観光による集客を行うには観光課などの連携が必要ではないのか。

A イベントでは直接的な観光課との連携は行っていないが、観光情報については情報の共有を図りながら行っている。

指摘 行政内部の連携も必要であるが指定管理者においてはDMOの理解のもと、観光協会との連携強化を行うよう指導する必要がある。

令和3年度平戸市水道事業会計予算

Q 老朽管の更新の優先順位や今後の改修計画はどのように考えているのか。

A 耐用年数を超えているものの把握、漏水事故の発生度合い、管の種類、給水人口などから管路別に点数化し優先順位を決定している。また、年間建設事業費を約4億円で平準化し計画的に実施しているところである。

